

1. 評価報告概要表

作成日 平成22年 3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1070100944
法人名	医療法人富士たちばなクリニック
事業所名	グループホームあかしの里
所在地	前橋市日輪寺町東田350番地2号 (電話) 027-232-3500

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年2月3日

【情報提供票より】(平成22年 1月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	17人 非常勤 7人 常勤換算 22.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000~37,200 円	その他の経費(月額)	水光熱費 1日400円	
敷金	有 (300,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円

(4) 利用者の概要(1月 8日現在)

利用者人数	26 名	男性	5 名	女性	21 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.08 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人富士たちばなクリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『安定した自由な環境を提供し 人としての尊厳を保ちながら 住み慣れた地域でその人らしく 生活できるホーム』を事業所の理念に掲げ、日々の中で利用者の立場に立ち、利用者のペースを大事にすること等で、その人らしく生活出来るようきめ細やかに支援している。また、併設医療機関との連携を図り、身体面からも利用者や家族が安心し、穏やかに過ごせるよう努力している。また、地域連携を大事に、地域の夏祭りに参加したり、文化祭に作品を出品したり、地域の防火訓練など地域活動に積極的に参加し、地域に根ざしたホームを目指し日々努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果をスタッフと検討し、同業者との交流では、地域密着型サービス連絡協議会の大会や管理者研修の参加で意見交換や交流を図っている。また、他ホームからの研修の受け入れも行っている。他ホームの交流研修も希望は出しているが、実現は出来ていない。入浴に関しては日は決めず、声かけし希望で入浴を支援している。現在夜間入浴希望はないが、希望があれば利用出来る準備はある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、外部評価を受ける意義を職員に説明し、認識度高めるため全員に自己評価の項目を記入してもらい、管理者が取りまとめを行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回 自治会の代表者、民生委員、市の担当者、家族の代表や職員等の参加で開催され、入居者の状況、行事報告、職員の異動、防災訓練や外部評価結果報告などについて話合われている。職員の名札の装着や自治会との避難訓練・グループホームを知ってもらうための見学会の検討など、参加者の意見を反映させサービスの向上に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が面会に見えた時など積極的に声かけし、意見を伺うようにしている。家族会や行事参加の時などにも意見を伺うようにしている。また、意見箱を玄関に設置し、来訪者の意見が届くようにしている。苦情の連絡先も明記されている。意見、苦情が発生した場合は、会議で検討して職員に周知し、結果は家族に報告しサービスの質の向上に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏祭りに参加したり、文化祭には各ユニットで作成した作品を毎年出品している。法人全体での感謝祭があり、地域の人も招待し関係作りに努力している。地域の防災訓練にも積極的に参加し、災害時の協力体制についても検討していただいている。また、ホームを具体的に知りたいとの地域の声に、ホームの見学会を予定している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2年前に今までの理念をスタッフと共に見直し、「地域」をふまえた「安定した自由な環境を提供し、人としての尊厳を保ちながら住み慣れた地域でその人らしく生活できるホーム」とした。この理念を基に、日々の介護に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3ユニットは、事業所の理念に添ったそれぞれの目標をもちスタッフと共に取り組んでいる。日常の中で、理念を基にスタッフの考え方を試み、会議で情報共有し具体的な方法を決めている。取り組みの判断は、理念に戻しながら工夫されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、防災訓練や清掃などに積極的に参加して顔馴染みの関係作りに努力されている。文化祭には毎年入居者が作成した作品も出品している。災害時の地域との協力体制についての検討時には、ホームを具体的に知りたいとの声に応じて見学会などを予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員に外部評価を受ける意義を説明している。自己評価の項目に対し職員個々が記入し、その後管理者が取りまとめを行っている。前回の外部評価の結果の話し合いは全体で行われ、改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族代表3名、自治会の代表、民生委員、市役所の担当者、管理者等で開催している。入居者状況、行事やインフルエンザの予防接種、外部評価報告、家族からの要望などについて話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>主に運営推進会議や感謝祭などの集まりの機会を利用して、情報交換を行っている。他はFAXでの情報のやりとりが主であるが、必要時は出向いて相談をおこなっている。今年はインフルエンザの情報の確認等の連絡が多かった。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>法人で発行している「さんぽみち」で、毎月の行事等は請求書と一緒に同封している。家族が面会時に見えたときに近況報告や年2回の家族会でも報告や意見交換を行っている。また、変化が生じた場合は電話で報告している。しかし家族によっては報告状況にばらつきがある。</p>	○	<p>現状の家族との連絡状況を再確認し、家族全員に同じように個別報告ができる工夫を期待する。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱を玄関に設置し、来訪者に意見を出しやすくしている。意見苦情が発生した場合は、カンファレンスやホーム長会議で検討している。その結果は家族に報告すると共に、職員で情報共有しサービスの質の向上に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が不穏になることがないように、事前に新入職員と退職予定者とが重複する勤務体制を組み、状況等を引継ぎように工夫している。体制が組めないときは日常のケアの中で伝え、利用者への影響を最小限にした取り組みをしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県主催の基礎研修を受講したり、法人が職員対象として毎月開催する拘束・褥瘡・認知症・感染などの勉強会に参加している。また、介護福祉士の資格取得も支援している。研修案内も職員に開かれ受講したい研修は参加しやすい職場環境にある。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会に加入し、他事業所職員との交流で実習の受け入れやグループホーム大会・管理者研修会を通し交流を図っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事前訪問し、普段の生活の様子を確認している。家族や入居者と会話しながら本人の癖や誇りに思っていることなど確認しながら、顔馴染みの関係を作り受け入れている。また、日常の様子を家族にバックグラウンドアセスメントシートに記入していただき、ケアに活かしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に野菜作りを行いながら育て方や料理の仕方を教えてもらっている。また、それぞれの人生の中での生きてきた考え方を教わったり、漢字を教えて頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話で自然に出てくる暮らしの希望や思いの言葉を、大切に受けとめている。会話できない入居者には、行動の様子から推測し、職員間で話し合っ判断している。また、日記を書いていたいただき、その中から食べたいものや逢いたい人等を探る取り組みもしている。年頭に入居者と目標や希望を書きだし、暮らしの中で支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	朝、夕の申し送り時に日常生活の細々とした事を記録に残し、スタッフ会議のケースカンファレンスの中で情報を集約し検討している。家族の希望は、面会時などに伺っている。受け持ち担当職員がスタッフと話し合い、介護計画の原案作成し、最終的にケアマネージャーが作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には毎月、利用者の状況等の話し合いをおこない、日常生活の検討を行っている。3ヶ月毎の定期見直し、また状態が変化したり、介護度の変更時は随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイケアに催し物のボランティアが来た時には、一緒に参加している。個別リハビリなど、必要時は理学療法士や作業療法士にホームに来ていただき、指導を受けることができる。また、訪問看護の導入もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医について家族、利用者に希望を聞き対応している。併設クリニックの希望があれば、変更している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と終末期に対する希望や方針について院長、管理者と共に話し合い、書面に残して確認でサインをいただいている。話し合いの内容については記録に残し、また職員全員が共有出来るように取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄など特にプライバシーに関わることは、みんなの前で言わないようにしている。また、声かけは小声や本人だけに分かるようなサインで伝えたりしている。個人情報や書類は、鍵のかかる保管庫に収納されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事を少なくし、個々に対応できるよう工夫している。入居者は折り紙をしたり、洗濯物をたたんだり、ソファでくつろいだり、居室でテレビをみたり、横になっていたりと、それぞれに過ごしている。生活歴から朝食の習慣ない入居者に対しても、習慣を考慮し利用者のペースで生活していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の希望を聞き、出来るだけ献立に取り入れている。一緒にジャガイモやリンゴの皮むき行ったり、おやつには得意な饅頭作りをする等、楽しみながら取り組んでいる。食事時は利用者の状態による見守り方や支援を行いながら、会話も楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせるよう、基本的には曜日や時間を限定せず対応している。希望は、午後に入浴される方が多い。朝から一番風呂を希望される入居者にも準備し、声かけを行っている。現在、夜間帯の入浴希望者はいないが、希望があれば実施したいとしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやりんごの皮むき、下膳、居室の掃き掃除等家でしていた事をできるだけ楽しみながら継続してもらおうように支援している。毎晩楽しみに晩酌している人や喫煙を行っている人の支援も行っている。天気の良い日は準備を手伝っていただきながら、外でお茶を飲むことも取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には声かけをしながら散歩に出かけたり、テラスでお茶をしながら外気に触れたり日光浴を楽しんだりしている。また、月に1度は外食やドライブも企画し、入居者の状態により2～3回に分け実施している。初詣もおこなっている。最近インフルエンザの影響もあり外出は避けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は車の通りに面し、ホーム内では死角に当たるため安全を考慮し時間で施錠している。見守りや玄関に出ると音が鳴るなどの工夫なども検討され実施されている。	○	安全面に配慮しながら今後も引き続き鍵をかけないで支援していく話し合いを行っていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。1回は法人と合同で、もう1回はホーム単独の夜間想定で利用者も参加して実施している。消防署立ち合いでも行われている。連絡体制が明記されており、地域の協力体制についても自治会と連携をとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は法人内の管理栄養士によるアドバイスを受け、基本的には利用者の要望を聞きながら職員が献立を考え、調理をしている。肉と魚は交互に出すなど栄養とバランスの工夫を行っている。水分摂取量は、10時、各食事時、19時とコップ1杯飲みきりを確認し、おおまかな水分摂取量を把握している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂のテーブルや椅子は木彫の安定感の良いものが置かれ、近くにはソファーが準備されくつろげる空間にもなっている。ホーム内には植物や利用者の表情豊かな写真が飾られ、利用者一人ひとりが思い思いの時間を過ごしている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の希望により、テレビや花、家族の写真、使い慣れたリクライニング用の椅子や整理箆箆、仏壇等が持ち込まれ個々の思い思いの空間になっている。整理された居室には床暖房が施されるなど、居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>		